

2020年 4月 25日

キャリアコンサルティング技能検定2級 学科・論述・面接試験 合格体験記

2級受検番号 NO 05S3520291 氏名 K S (兵庫県在住)

■2級技能士を目指したきっかけ

- ① 国家資格キャリアコンサルタント(JCDA)の受験準備にあたり、多くの有資格者に面接指導のお世話になったが、その際、2級技能士有資格者は他の標準レベルの方と比べ、能力・指導力の高さを感じるが多かったことから、自分も2級技能士レベルを目指したいと思ったこと。
- ② 退職後の第2の人生でキャリアコンサルタントとして働きたいと考えているが、2級技能士であることが、能力の証明やより有意な人脈形成等に役立つかもしれないと考えたこと。
- ③ 自己の能力向上のため、2級技能士の受検準備を活用していこうと考えたこと。
- ④ 国家資格受験の際に学んだことを忘れないうちに、2級技能士の学科を受けてしまっていたこと。等の様々なことをきっかけとして、2級技能士を目指すことにしました。

■当初の勉強法

① 結果概要

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1回目・・・第19回(平成29年度) | 学科合格 実技不合格(論述○、面接×) |
| 2回目・・・第20回(平成30年度) | 実技不合格(受験申請はしたが、仕事で未受験) |
| 3回目・・・第21回(平成30年度) | 実技不合格(論述○、面接×) |
| 4回目・・・第22回(令和元年度) | 実技不合格(論述○、面接×) |
| 5回目・・・第23回(令和元年度) | 実技合格(論述○、面接○) |

② 面接不合格の反省・教訓

➤ 目的意識が不明確であったこと。【目的不明確】

標準レベルの受験で勉強したことを忘れないうちにといい、軽い気持ちで2級技能士を受検し、自己の将来における2級技能士取得の意義が不明確であったことから、絶対に合格したいとの意欲に欠けたまま何気なく受検を続けたこと。(※上記の「■2級技能士を目指したきっかけ」にはその後追加したことも含んでいます。)

➤ 20分をどう使うのか、出来上がりのイメージが十分でなかったこと。【目標未確立】

受験票に「面接を進めるにあたっては、キャリアコンサルタントのあり方は自由ですが、相談者との関係構築、相談者の抱えている問題、その問題に対する目標設定など、具体的展開につながるような応答、プロセスを心がけてください。」と書かれており、これらを短い時間で表現していくには、CCペースになり兼ねず、どのように20分を使うのかははっきりと自分なりの腰が定まらないまま受検を繰り返していた。また、「CLの訴えへの応答」と「CCからの意図を持った質問」をごちゃ混ぜにしてロープレを進めていた。さらに、口頭試問においては、その場で思ったことを解答していた。

➤ 良い教材・良い講座に触れることなく、準備を進めたこと。【要領と自己の理解不足】

ネットに溢れる文章や動画を参考に受検準備をしたことにより、点数に結び付かない、ネットでの発信者の自己満足のようなことを真似てしまったこと。また、他者からのコメント(フィードバック)を頂くことをせず、我流でチャレンジし続けたこと。

■合格のきっかけ

「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」と気軽に考えて受検して来たが、3度目に不合格通知を頂いてから、このままではずっと落ち続けるのではと感じたことから、「1級キャリアコンサルティング技能士の会」の門をたたき、4回目・5回目の準備において、数度の対策講座に参加したことが、上記の反省・教訓の改善のため有効であった。

■学科試験の勉強

① 試験対策

心理学についての基礎知識はあるので、問題集（キャリアの赤本）と過去問を中心に受験準備をした。問題集（キャリアの赤本）については、仕事帰りにカフェで1～2時間問題を解き、解説を読み、解説で分からないところはスマホで調べ、解説の横に書き込むことをして、3回転こなした。過去問は休日に時間をはかり、マークシートに印をつけ、過去8年分を本番と同様に行った。過去問をやってみるとわかるが、類似の問題が過去に出ていることが多いので、非常に役に立った。

② ポイント

- 選択式なので、浅く広く勉強した。
- 過去問で、問題傾向を把握した。
- 本番では、消去法により正答率を少しでも高めた。

③参考資料

- 「キャリアの赤本」 1級キャリアコンサルティング技能士の会
- 「JILPT（2016年3月）」 労働政策研究・研修機構
- 「厚生労働白書」

■論述試験対策

① 試験対策

過去問（15年分）の実施とそのたびに自分なりの「記述フォーマット」を更新することにより試験対策を行った。

② ポイント（逐次改善した事項）

- 一貫性ある解答（問題点と目標・具体的方策）
- 短い試験時間の中で要領よく解答するため、自分なりの「記述フォーマット」をあらかじめ作成しておいた。
- 以下は単なるテクニック。これで70点以上でした。
 - ・問1は、全体を把握して、起承転結・理路整然と一つの文章にまとめると時間ばかりかかるので、CLの訴えを逐語録に出てくる順に箇条書きで列挙した。（時間を節約）
 - ・問2は、6個の視点（自己理解・仕事理解・コミュニケーション・中長期視点・自己効力感の低下等のCLの状態・認知の歪み）に基づく記述内容をフォーマット化し、逐語録のキーワードを追加して答案を作成した。例えば、「CLは、……であり、自身の保有する能力や仕事上の適性等に関する客観的な評価ができておらず、自己理解が不足している。」等
 - ・問3の目標は、問題点との一貫性を考慮しながら、中長期目標と当面の目標を分けて表現した。また、「CLが……できるようになることを当面の目標とする。」等の表現でCLが到達すべき「状態」を表現するようにした。
 - ・問3の具体的方策は、箇条書きではなく、問題点との一貫性を保持して、理路整然とスマートに記述できるように、接続語にも留意してフォーマット化して準備、逐語録のキーワード等を散りばめながら記述した。例えば、「……により、ラポールを形成・深化する。そのうえで、……等の自己理解を深める支援をする。次に、……等により、コミュニケーションの改善を支援する。そのうえで、……する等の仕事理解足進のための情報収集を提案する。また、……等をして、マネープランを踏まえた中長期のキャリアプランを一緒に考えていく。以上のことを通じて、CLが自分に気づき、認知・行動・意欲の変化が起き、今後の働き方（OOOOO）について、自律的かつ適切に意思決定ができるよう支援していく。」のようなフォーマットを作成した。これは面接の際の口頭式問にも役立った。

■面接試験対策

① 試験対策

前述の反省・教訓を踏まえ、1級キャリアコンサルティング技能士の会の講座（合格アドバイス講座、実技試験ケース分析講座、実技（面接）試験対策）等に参加し、先生方からの評価を頂くとともに、対策講座の仲間とのロープレを試験直前まで継続しました。

ロープレ準備では、関係構築、問題把握、目標設定、具体的展開の各段階で必ず使うような言い回しはフォーマット化して、試験官に対し、今自分はどの段階をやっているんだということが伝わるように準備した。

また、口頭試問準備においては、その場で思いついたことを語るのではなく、評価項目に照らし合わせてどうだったのかを回答できるように練習した。といっても、その場ではなかなか難しいので、自己の強点・弱点に合わせて、あるいは、うまくいった場合・うまくいかなかった場合に対応できるように回答の参考をあらかじめ準備をした。

② ポイント（反省・教訓を踏まえ改善した事項）

➤ ロープレ・口頭試問の模範例を継続的にインプットした。

「2級実技試験（論述・面接）合格バイブル」の動画を見るとともに、音声を取り出して通勤や散歩の際に反復確認して、全体の流れを掴むとともに、使いやすいフレーズを自分のものにした。

➤ プロセスの段階を踏まえ、意図をもった発言を心掛けた。

言葉を発する際、「CLの訴えへの応答」と「CCからの視点を持った質問」のどちらの段階を行っているのか試験官からわかるように、要約と段階移行のフレーズをはっきりと発言するとともに、自分はお医者さんになったつもりで、段階区分を意識化した。すなわち、患者が医者前で症状を語るのか前の段階で、それをもとに経験を踏まえて、視点を持って、「舌を出して」とか聴診器をあてているのか後の段階であるとイメージアップした。

➤ ロープレで必ず使うフレーズは、よどみなく語れるように準備した。

挨拶、来談目的の確認、CLの訴えの要約、CC視点の問題の要約、目標の設定、具体的展開等、各段階への移行にあたっては、だいたい同様のフレーズを用いるので、あらかじめ自然に出てくるように準備した。

➤ 口頭試問では、評価に結び付きそうな上手い言い回し（フレーズ）を準備した。

口頭試問の回答は、対策講座での先生の発言、ロープレでの受験生の発言、参考資料等の中で上手いフレーズがあれば、それを取り入れて自分のものにしていった。

➤ いろんな準備はしていくが、試験当日はとにかくCLに真剣に向き合った。（CLペース）

各種のフォーマット等の様々な準備をしたが、当日はCLに真剣に向き合い、関係構築とCLのペースを守ることを意識して臨んだ。

5回目の受検の際は、CL（宮田さん）が、当初の訴えになかったこと（既に何件かの就職機会にチャレンジしている）を10分過ぎに突然語ったので、かなり驚き、その事実と思いの確認に時間を要し、私のペースは大きく崩れ、目標設定できないまま終了したが、CLのペースに合わせ、客観的に自己を見つめていただく面談はしっかりできた。

今振り返ると、不合格の時はややCCペースで面談を進め、時間ギリギリに強引に目標の同意を迫った感じだったが、今回はCLのペースを守り、CLに客観的に気付いていただくことを重視して行い、目標を設定しないまま終了したが合格を得た。（口頭試問ではフルに時間を使い、うまくいかなかった点、こうしようと思っていたこと等をしっかり語った。）

③ 参考資料

- 「2級実技試験（論述・面接）合格バイブル」1級キャリアコンサルティング技能士の会
- キャリアコンサルティング 2級技能検定合格テキスト

■受検される方へメッセージ

Never Give Up

何度も不合格になりましたが、何もやらなかったより、受験準備自体が自己の能力向上や人脈形成に役立ったと思っています。「人生に失敗は無い。あきらめた時、失敗と云う。」(作者不明)との言葉を胸に努力しました。皆さんも頑張ってください。

Where there is a will, there is a way!